

埼玉県立大学
研究・地域活動シーズ
2022-2023

【2023新規・更新版】

2023年7月追加掲載

《掲載》

- 新規 12シーズ
- 更新 9シーズ

《2023年度 21シーズ追記掲載》

- ・新規 12シーズ
- ・更新 9シーズ



【目次】

- 保健医療福祉学部
 - 共通教育科
 - 看護学科
 - 理学療法学科
 - 作業療法学科
 - 社会福祉子ども学科
 - 健康開発学科

- 大学院
 - 保健医療福祉学研究所

ページ	新規/更新	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
2	新規	乳幼児の成長発達と子育て支援	看護学科	教授	関 美雪
3	新規	寝たきり患者が車椅子シーティングを活用するための看護援助方法	看護学科	准教授	青森 広美
4	新規	地域におけるヘルスプロモーション活動～ヘルスリテラシーと健康教育～	看護学科	准教授	石崎 順子
5	新規	地域在住高齢者の通いの場を活用したフレイル予防対策	看護学科	准教授	柴田 亜希
6	新規	メンタルヘルスと精神科医療の課題	看護学科	助教	小川 千恵子
7	新規	中絶ケア・シミュレーション教育	看護学科	助教	斎藤 未希
8	新規	退院後の生活の見通しをもった食支援に関する研究	看護学科	助教	宮部 明美
9	新規	地域包括ケアの推進／介護人材の確保・定着	理学療法学科	教授	吉田 俊之
10	新規	子どもの作業療法	作業療法学科	助教	田坂 翔太
11	新規	社会的養護の子どもと家族への支援	社会福祉学専攻	教授	大塚 音
12	新規	障害者雇用における事業主支援	社会福祉学専攻	教授	小澤 昭彦
13	新規	自然を活用した子どもの健康づくり	福祉子ども学専攻	助教	居崎 時江
14	更新	人体の構造を立体的に学ぶ教材の研究	共通教育科	准教授	高柳 雅朗
15	更新	市民と保健医療者が共に考える「市民中心のケア “People-Centered Care”」の教材開発	看護学科	教授	高橋 恵子
16	更新	看護師の支援に関する研究・モノづくり・地域と繋がる	看護学科	准教授	田中 広美
17	更新	精神科訪問看護による虐待予防 精神障害者と家族の生活を支援します	看護学科	准教授	森田 牧子
18	更新	外国人住民支援・シミュレーション教育	看護学科	助教	千葉 真希子
19	更新	呼吸・循環・代謝系障害への介入効果に関連する研究開発	理学療法学科	教授	今北 英高
20	更新	Fascia（ファシア）に関連する研究開発	理学療法学科	教授	今北 英高
21	更新	障害者の就労支援・雇用支援	社会福祉学専攻	助教	富田 文字
22	更新	睡眠を改善する介入プログラムの開発と効果の検証	検査技術科学専攻	教授	有竹 清夏

乳幼児の成長発達と子育て支援

看護学科

関 美雪

教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

公衆衛生看護学、地域看護学
育児支援、乳幼児、成長、発達、地域づくり
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=154seki>



研究概要

子育ては大変なこともあります。子どもの成長はとてうれしいものです。しかし、児童虐待の相談対応件数の増加、児童虐待による死亡事例報告を見ると、子育ての難しさを感じます。このため、子育てを地域社会全体で取り組めるように社会システムを作ることが重要です。身近に子育ての相談者がいることやパートナーや友人等、何でも相談できる相手がいることが、子育てにとって重要なことが分かっています。安心して子育てできる要因や、子育て世代の保護者のニーズに沿った支援や施策につながるよう研究をすすめています。

研究紹介

子どもの成長・発達の促進や子育て支援、児童虐待をはじめとする子育てに関する課題に取り組んでいます。具体的なテーマについては以下になります。

1. 妊娠期からの子ども虐待予防のためのアセスメント指標の検討
2. 乳幼児を持つ父親のコンピテンシーに関する検討
3. 乳児を持つ養育者の育児情報の取得と活用の検討
4. 養育者の心理的ストレスとヘルスリテラシーの検討
5. 母子のための地域包括ケアシステムの構築

講座テーマ紹介

1. 乳幼児期のお子さんを育てている保護者を対象とした講座
子どもの発育と発達を理解することで、子育ての悩みや不安が軽くなることがあります。睡眠や食事等の子どもの生活習慣を整えることは特に重要です。一方、現代では、共働き家庭が増加し、子育ては両親ともに役割分担をしながら一緒に子育てすることが重要です。お父さんを対象とした子育て講座も充実させていきたいです。
2. 子育て支援に携わっている方を対象とした講座
地域で子育て支援に携わっている民生委員、子育てボランティアの方を対象に、地域での子育てについて考える講座の開催も充実させていきたいです。

アピールポイントなど

自治体での家庭教育学級の講師や子育て広場の開催、放送大学では一般の方向けに、子どもの保健の講義を行いました。地域全体で子育てを支えるしくみづくりに貢献していきたいと思っております。



寝たきり患者が車椅子シーティングを活用するための看護援助方法

看護学科

青森 広美 准教授

【研究分野】 車椅子シーティング、基礎看護学

【キーワード】 車椅子シーティング、寝たきり患者、動作分析

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=285aomo>



研究概要

現在の日本において、一個人として自立して社会生活を営むことができる「健康寿命」と、生が尽きる「生命寿命」のギャップは約10年あり、その間を寝たきりで過ごす高齢者も少なくありません。寝たきりであることは、患者の「生きがい」、能力の維持、社会とのつながりを削ぎ、患者の「生活の質」に大きく影響します。寝たきりで過ごしている患者の医療処置や看護援助をベッド上だけでなく、安楽に車椅子上で実施できるという変換ができれば、患者がベッドから離れる時間を増やすことができます。このことが患者のQOLの向上に寄与すると考え、車椅子上での看護援助に関する研究に取り組んでいます。

研究紹介

・ベッド上、車椅子上での看護援助時の動作分析

模擬患者にて、ベッド上、車椅子上の患者への看護援助の負担を分析した。看護師の背部に、無線3軸姿勢センサを配置し、センサ間の相対角度から、「腰痛につながる脊柱の傾斜やねじれ」の程度を比較した。

・車椅子シーティング中に安全に看護援助を受けるためのガイドラインを作成中。



講座テーマ紹介

- ・患者／援助者に負担の少ない日常生活援助技術
- ・車椅子での生活への介助
- ・意思表示が困難な患者とのコミュニケーション

アピールポイントなど

車椅子シーティングに精通した理学療法士と共同研究をしております。先進的な車椅子シーティング技術を持つカナダや欧米の現状についてもお伝えします。

地域におけるヘルスプロモーション活動 ～ヘルスリテラシーと健康教育～

看護学科

石崎 順子 准教授

【研究分野】 公衆衛生看護学、地域看護学
 【キーワード】 健康づくり、ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシー、健康行動
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=306ishi>



研究概要

ヘルスプロモーションとは、「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」(WHO)と定義されています。ヘルスプロモーションの推進には、人々の主体的な健康づくりと誰もが健康になれる社会の創造への取り組みが重要であり、そのアウトカムとしてヘルスリテラシーへの注目が高まっています。ヘルスリテラシーは、健康や医療に関する情報を入手、理解、評価、活用するための知識、意欲、能力であるとともに、社会における資源でもあります。人々の健康行動、健康状態とヘルスリテラシーとの関連を明らかにすることで、ヘルスリテラシーの向上に着目した効果的な健康教育プログラムの開発を目指しています。

研究紹介

1. 女性の身体活動とヘルスリテラシーの関連

スポーツ実施率の低い20-40代女性を対象とした調査において、ヘルスリテラシーが高い人は低い人より運動・スポーツを実施(週1回以上)しており、健康のために推奨される身体活動量を達成している人も多いという結果が得られました。また、子育てや仕事といった運動・スポーツの実施を阻害する要因の影響を差し引いても、ヘルスリテラシーの高さは、運動・スポーツ実施、身体活動量に関連していることがわかりました。

2. 高齢者のフレイルとヘルスリテラシーの関連

地域在住の高齢者における身体・社会的フレイルとヘルスリテラシーとの関連を検討したところ、フレイル該当者のヘルスリテラシーは非該当者よりも低いという結果が得られました。

講座テーマ紹介

- 健康づくり、保健・予防に関連した一般向けの講座
- 健康づくりボランティア等、地域における健康づくりリーダーに向けた「健康」「ヘルスプロモーション」に関する講座

アピールポイントなど

埼玉県内自治体において、保健医療に関する計画策定や保健事業の評価に関わる活動に従事しています。また、自治体保健師の階層別研修(新任)に協力し、専門的能力獲得に向けた保健師の人材育成や基礎教育のあり方についても検討しています。

地域在住高齢者の「通いの場」を活用したフレイル予防対策

看護学科

柴田 亜希 准教授

【研究分野】 公衆衛生看護学、地域看護学、公衆衛生学
 【キーワード】 フレイル、通いの場、ヘルスプロモーション
 【URL】 <https://researchmap.jp/shibata-aki/>



研究概要

急速な高齢化が進展する我が国において、高齢者の健康増進を図り、健康に長生きできるよう健康寿命を延伸することが重要な課題となっています。高齢者は、身体的脆弱性や複数の慢性疾患、認知機能や社会とのつながりの低下といった、多様な課題と不安、いわゆるフレイル状態になりやすいという特徴がある反面、フレイルは改善することが可能でもあります。フレイル予防対策を推進するにあたり、健康な高齢者も含めた幅広い対象にアプローチすることが重要であり、そのため近年広がりを見せている「通いの場」を活用した取組みに期待が寄せられています。

「通いの場」活動など、住民が主体となって行う健康づくりを支援することにより、誰もが安心して暮らせる地域づくりの推進に寄与できるような研究に取り組んでいます。

研究紹介

1. 「通いの場」活動の健康寿命延伸への寄与に関する研究

KDB（国保データベース）を活用した、「通いの場」における活動が骨折や要介護状態への進展といった健康寿命に及ぼす影響の検討

2. フレイルの早期介入支援の検討

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を活用した、フレイルの社会的側面からみた介入可能な要因の検討

3. 「通いの場」の継続運営のための課題解決に向けた支援

インタビュー調査による、「通いの場」が抱える運営上の課題の明確化と課題を解決するために必要な支援の検討

講座テーマ紹介

- ・住民の健康づくり活動の評価
- ・対人支援スキルの獲得に向けた専門職向けの講座

アピールポイントなど

地域を取り巻く環境の変化とともに、健康課題も複雑化・多様化する中、すべての人が安心して暮らせることを目指して、地域住民の健康づくりに関する研究を行っています。そして、地域住民や地域で活躍する支援者の皆様に役立つような実践的な研究を目指しています。

自治体の健康づくり推進協議会の委員や健康増進計画のオブザーバーとして関わらせていただいております。



看護学科

小川 千恵子 助教

【研究分野】 精神看護学

【キーワード】 精神看護学、精神科、メンタルヘルス、人材能力の可視化

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pid=310ogawa>

研究概要

人の健康と、人が生きる社会の健全な発展のためにメンタルヘルスは欠かせません。自分自身の、そして大切な人のこころの健康に関心を持ち、メンタルヘルスと精神科医療がより身近なものになることを願っています。

学校保健の分野から子どもたちのメンタルヘルスに関する研究、地域住民のいのちを守る活動の一環として自殺予防に関する研究を行っています。また、誰もが安心して精神科医療にアクセスできるようになるためには、精神科医療の質を高める必要があります。患者ケアを行う看護師の育成は重要な課題ですが、個人の経験や勘に頼るような実践では、人材の育成はできません。そこで、精神科看護師の専門性を明らかにし、人材能力を可視化するための研究を行いたいと考えています。

研究紹介

- 発達障害グレーゾーン（境界域）の子どもの行動特性と臨床的特徴
- 地域住民の自殺予防に関する研究
- 精神科看護師の専門性に関する研究
- 精神科急性期病棟における看護量に関する研究
- 精神科病棟におけるリスク評価に関する研究

講座テーマ紹介

- ゲートキーパー養成研修
自殺予防のためには、自殺のリスクにつながるような悩みに①気づき、声をかけ、②話を聴き、③必要な支援につなげ、④見守る、ゲートキーパーの役割が重要です。ゲートキーパーに必要な知識と適切な対応のための技術を学んでいただき、地域の自殺予防に貢献します。
- 高校生を対象とした出張講座
看護の仕事や大学での授業内容の一端を紹介し、看護職の活躍の場や仕事の楽しさ、興味深さといった看護の魅力をお伝えします。

アピールポイントなど

2022年度より、埼玉県救急医療審査会委員、また、ゲートキーパー養成研修の講師を務めた吉川市自殺防止対策事業に携わらせていただいております。

主に精神科の救急医療に携わった経験、また災害派遣精神医療チーム（DPAT）の隊員として訓練を受けた経験などから、メンタルヘルスと精神科医療に関わる様々な分野での課題に取り組みます。また、臨床時代の教育担当・中間管理職経験から、精神科看護師の人材能力の可視化にも取り組みたいと考えています。

中絶ケア・シミュレーション教育

看護学科

斎藤 未希 助教

【研究分野】 ウィメンズヘルス、母性看護学、助産学
 【キーワード】 人工妊娠中絶、リプロダクティブヘルス&ライツ
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=292sai>



研究概要

- 日本では「人工妊娠中絶＝よくないこと」という認識が強いですが、中絶は女性のリプロダクティブヘルス&ライツ（RHR）を達成するための重要な選択肢です。
 これまで、中絶の中でも妊娠12週以降の中期中絶に焦点を当て、ケア提供者である助産師を対象とした研究を行ってきました。中絶ケアの質向上と、ケア提供者である看護職者の心理的負担軽減を目指しています。
- 近年の分娩件数の減少、COVID-19の流行による臨地実習の制限を踏まえ、ICTを活用したシミュレーション教育を行っています。

研究紹介

「中期中絶を受ける女性へのケアで助産師に生じる葛藤と折り合い」

助産師がケアで抱く葛藤に折り合いをつける現象とプロセスを明らかにしました。

「中期中絶ケアにおける助産師の感情尺度の開発と信頼性・妥当性の検討」

助産師がケアで抱く感情（陰性感情および陽性感情）を測定可能な尺度を開発し、信頼性と妥当性を検討しました。

講座テーマ紹介

- 中絶ケアに関する講座
- 中絶を受ける女性に関する講座

アピールポイントなど

- 助産師を対象とした「助産師の中絶への向き合い方」講座の経験があります。
- 2021年より日本助産学会のリプロダクティブヘルス・ライツ/アブーションケア（SRHR & Abortion care）プロジェクトに参加し、アブーションケアのためのベストプラクティスガイドラインの作成を行っています。
- <https://researchmap.jp/saito-miki> もご覧ください。



看護学科

宮部 明美 助教

【研究分野】 成人看護学

【キーワード】 栄養管理、食支援、高齢者、看護師教育、

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=118miya>

退院後の生活の見通しをもった食支援に関する研究

研究概要

日本では入院患者の約7割が高齢者であり、高齢者が退院後に住み慣れた地域で生活を送れるよう、入院中から退院後の生活を見通して支援する必要があります。高齢者は身体的・心理的・社会的要因より食欲や食事摂取量が低下し、栄養障害を導きやすいです。また、高齢者は入院前は自立した生活を送っていても、入院や治療をきっかけに機能障害を有し、退院時に支援を要することも多いです。

NST（Nutrition Support Team, 栄養サポートチーム）は栄養障害あるいは栄養障害リスクのある患者に対し、専門的なケアを提供しています。病棟看護師は患者や家族と過ごす時間が長く、NSTと連携しながら退院に向けて準備する必要があります。そのためには、病棟看護師は高齢入院患者の栄養アセスメントから退院後の生活を踏まえた食支援、必要な専門職へつなげる知識や技術が求められます。

研究紹介

病棟看護師による退院後の見通しをもった高齢者の食支援尺度の開発

- ・ 概念分析より項目作成と定義づけ
- ・ デルファイ法を用いて項目を精練
- ・ 尺度の信頼性と妥当性の検証

今後は、病棟看護師とNSTをつなぐ、NSTリンクナースに着目しています。

作成した尺度を用いて、NSTリンクナースの介入により、病棟看護師の食支援が向上したかを評価していく予定です。

講座テーマ紹介

- ・ **NST活動の向上のための講座**
 - ・ NST専任（専従）看護師の役割
 - ・ NSTリンクナースの役割
 - ・ 病棟看護師の役割
 - ・ 多職種連携
- ・ **看護師の栄養管理・食支援に関する実践力向上のための講座**
 - ・ NSTや教育担当者が栄養管理や食支援に関する教育をする際のポイント

アピールポイントなど

日本臨床栄養代謝学会関越支部世話人をしています。

NSTで活動している方、あるいは栄養管理や食支援に興味のある方、看護師だけでなく多職種の方とも一緒に患者さまの退院後のQOL維持・向上に向けて取り組んでいけたらと思います。



理学療法学科

吉田 俊之 教授

【研究分野】 ヘルスケアポリシー・マネジメント、地域包括ケア
 【キーワード】 リエイブルメント、介護保険事業（支援）計画、介護分野の生産性向上
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=339yoshi>



地域包括ケアの推進／介護人材の確保・定着

研究概要

・高齢者の主体的な健康行動をリハビリ専門職等が支援するリエイブルメント・プログラムの効果検証や経済評価を研究しています。リエイブルメントの考え方では、高齢者は自分自身のケアに積極的に参加し健康とウェルビーイングを高めようと行動します。

・介護分野における生産性向上をテーマにしています。具体的には、業務の改善活動の実践や介護ロボット・ICTの活用を通じて間接業務を効率化しケアの質を高める好循環を安定的に運用するプロセスのマネジメントを扱います。

講座テーマ紹介

- 地域包括ケアの推進 → 自治体向け、介護サービス事業者向け
 - ・データ分析を含む地域課題の分析等を通じた地域ケアマネジメントの支援
 - ・リエイブルメント・プログラムを活用した通所C型（短期集中）事業の実装支援
- 介護人材の確保・定着 → 主に、介護サービス事業所・施設向け
 - ・介護分野における生産性向上に関するセミナー
 - ・業務の改善活動の実践的な導入セミナー・ワーク／伴走支援
 - ・介護ロボット・ICTの実践的な導入セミナー・ワーク／伴走支援

アピールポイントなど

- 社会貢献等
 - ・日本生活支援工学会 理事
 - ・医療経済研究機構・社会保険福祉協会 国際長寿センター 客員研究員
- 分担執筆
 - ・標準理学療法学（第5版）地域理学療法学（医学書院）
 - ・地域包括ケアシステムにおけるPT・OTの役割（文光堂）
- 寄稿・ディスカッションペーパー・レポート
 - ・介護予防・日常生活支援総合事業を通じた予防理学療法の効果評価（医療経済研究機構）
 - ・予防医療及び介護予防に関連する経済理論モデルレビュー（成城・経済研究、共著）
 - ・介護分野における持続的な生産性向上に取り組むためには（地域ケアリング）
 - ・高齢者支援組織のマネジメント（海外の高齢者介護・地域支援情報、共著）
- セミナー講師等
 - ・エビデンスに基づいた行政とのコミュニケーションについて（日本理学療法士協会）
 - ・介護分野における生産性向上に関する研修会（厚生労働省、東京都、他）
 - ・人生100年代と理学療法士の可能性について（自民党厚生労働部会小委員会）
- その他

介護保険事業計画等の策定支援や介護保険制度等に関する全国規模の調査に従事した経験を生かし、国等の政策方針と実務的な進め方を踏まえた対話やご提案を心がけています。



作業療法学科

田坂 翔太 助教

【研究分野】 発達期作業療法学 時間概念の発達に関する研究
 【キーワード】 小児作業療法、発達障害、自閉スペクトラム症、肢体不自由、重症心身障害
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=343tasa>



子どもの作業療法

研究概要

文部科学省の調査では「小学校・中学校で『学習面または行動面で著しい困難を示す』とされた児童生徒数の割合は8.8%」と報告されています。また、このように支援が必要な子どもたちが増加すると同時に保健、保育、療育、医療、教育の現場で作業療法士として必要とされる場面や求められる役割が拡大しています。

子どもを育み、社会へと羽ばたかせるために、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、保育所等訪問支援などの福祉サービスとその事業所数は充実しつつあります。作業療法士として子どもの発達を支え、子どもが子どもらしく生活できる地域づくりに貢献するために発達期作業療法について研究を開始しました。

講座テーマ紹介

1. 作業療法の視点を活かした障害のある子どもの理解（保護者向け・支援者向け）
 - ・作業療法士の視点で、子どもの行動の背景に対する理解の仕方をお伝えします。
2. 保育・療育・医療・教育の実際場面を伴う事例相談・事例検討（支援者向け）
 - ・施設を訪問し、作業療法士の視点で支援者と一緒に支援を検討します。
 - ・施設を利用している対応に悩む子どもについて一緒に支援を考えます。
3. 保育・療育・医療・教育の記録映像の視聴を伴う事例相談・事例検討（専門職向け）
 - ・施設を利用している様子を記録していただきます。
 - ・記録映像を視聴して、作業療法士の視点で支援者と一緒に支援を検討します。
 - ・施設を利用している対応に悩む子どもについて一緒に支援を考えます。

アピールポイントなど

これまで私は、自治体の小児の診療所、児童発達支援センターで作業療法士として勤務し、子どもとその家族、支援者に関わること、保護者や支援者向けに研修会や学習会を数多く経験してきました。また、埼玉県内の子どもに関わる作業療法士のネットワークの構築を目指し、つながりを作ってきました。

今までの経験やネットワークを基盤として、子どもの発達と家族、支援者のために、地域貢献・研究活動につなげていきます。



社会的養護の子どもと家族への支援

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

大塚 斉 教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

臨床心理、家族、児童虐待
社会的養護、児童虐待、家族
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=340otsu>



研究概要

「子どもにとって家族とは何か」ということを関心の中核に、子どもへの支援、家族への支援の在り方を考えています。また逆境的な環境で育ったにも関わらず、しなやかな社会適応を果たした子どもたちへの関心（レジリエンス）を持っています。またそのような育ちを支える支援者の育成、研修の在り方にも関心を持っています。

講座テーマ紹介

【家族についての心理教育】

- 一般
 - ・学生、市民向け講座、小学校保護者会等において、家族はどういうもので、子育てにおいて、何に気を付けるとより良くなるかについての講演
- 専門家向け
 - ・家族への支援の視点や方法についての研修
 - ・ジェノグラムの理解
 - ・家族合同面接（複数が同席する面接）のコツ

【不十分な養育環境で育った子ども達への支援】

- 保育園や幼稚園、小中学校、児童養護施設等において、養育環境が整わない子どもたちをどのように理解し、支援できると良いのかをテーマに研修
- 専門家向け
 - ・被虐待児童への支援について、心理的な視点から研修

【虐待の起こった家族への支援】

- ・虐待が生じた家族のアセスメントと支援
- ・ジェノグラムによる家族理解

アピールポイントなど

【活動】

これまで家族をテーマにした市民講座、保育士、小中学校の教職員向け研修、児童相談所、児童養護施設、児童家庭支援センターの専門家向け研修を行ってきました。

【委員】

平成27・28年度 厚生労働省雇用均等・児童家庭局 社会的養護関係施設における親子関係再構築支援の取組に関する調査 検討委員会委員
東京都臨床心理士会 子育て専門委員会 協力委員

【代表論文】

大塚斉（2014）児童養護施設における子どもと家族の歴史を紡ぐジェノグラム～システムミックな援助実践～ In 日本家族心理学会編「家族心理学年報32 地域と家族の未来像」金子書房

大塚斉・田附あえか（2018）「児童養護施設における性的問題 親密な人間関係と性の育ち」精神療法第44巻第5号「精神療法とセックス」41-45.



社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

小澤 昭彦 教授

【研究分野】 職業リハビリテーション、障害者雇用における合理的配慮
 【キーワード】 障害者雇用、精神障害者雇用、合理的配慮、事業主支援、事業主の態度
 【URL】 <https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000020584155/>



研究概要

障害者の就労支援を進めるうえで、本人側の職業準備の向上に併せて、受け入れ先となる事業主側の障害者の雇用に対する態度も、支援者が考慮すべき重要な要素といえます。

そこで、事業主を対象に、障害者雇用における事業主に対する支援モデルや、障害者に対する職場での合理的配慮の提供モデルに関して研究を進めています。

研究紹介

1 精神障害者雇用におけるエビデンスに基づく事業主支援モデルの構築

本研究は、精神障害者が求職活動する際に直面する参加制約のうち、事業主の態度を取り上げ、その態度の構造および態度変容の要因を把握することにより、事業主が精神障害者を雇う際の支援者による支援の基礎資料を得ることを目的とした研究です。

2 障害者雇用における障害者に対する合理的配慮提供モデルの構築

本研究は、事業主が新たに障害者を雇う際に障害者に対して合理的配慮を提供すること、に対する事業主の態度を明らかにすることで、事業主が障害者を雇う際の支援者による支援の基礎資料を得ることを目的とした研究です。

講座テーマ紹介

- 障害者雇用に関連した専門職向けおよび事業主向けの講座
- 認知行動療法に関連した講座

アピールポイントなど

- ・ 科学的な方法による研究を重視し、国内外への研究成果の発信を大切にしています。
- ・ 地方自治体における障害者自立支援協議会・会長、障害者自立支援協議会就労支援分科会・会長、リハビリテーション協議会・委員を、これまで務めさせていただきました。



自然を活用した子どもの健康づくり

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

居崎 時江 助教

【研究分野】 公衆衛生、小児保健、保育、野外教育
 【キーワード】 子ども、運動あそび、健康づくり、自然環境、自然体験
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pid=212iza>



研究概要



野外活動や自然体験は、成長期の子どもの心と体の健康的な発達にとって大切です。



幼少期に自然の中で地域の方々の多くの方々と関わりながら思いっきり遊ぶことは自然や地域を愛し、地球・その地球に住む人間・動植物を守ろうとする気持ちを育むことも期待できます。しかし、現代は学校や社会教育施設のプログラムへの参加など意図的でなければこれらの体験を獲得することが難しくなっています。また、家庭の収入など経済的要因でこれらに簡単に参加できない子どもたちも多くいます。これらの課題を**自治体、保育・教育現場、スポーツクラブ**等と一緒に向き合っていきたいと思えます。

研究紹介

- ①**自然体験・自然環境と健康**の関係を探る（幼少期・青年期・成人期・高齢期に分けて）
主な研究方法—疫学的手法
- ②**感染症発生時**での自然体験活動の現状、課題を探る **主な研究方法**—インタビュー手法
- ③Planetary health, One health等、グローバルヘルス（国際保健）の中で**自然と人間の健康**の関係がどのように扱われているのか、日本や各地域の課題にどのようにつなげていくのかを探る **主な研究方法**—文献研究・アンケート調査

講座テーマ紹介

- ・自由あそび（Unstructured activity）の意義、方法
- ・子ども（0～6歳）の心と体がときめく運動遊びの工夫・アイデア（室内・屋外両方に対応できます）
- ・自然と子どもとの関わり など



アピールポイントなど

- ・経済状況がよくない家庭の子ども、運動が苦手な子ども、アスリート志向の子ども、アスリート、高齢者など、多様な方々の健康、体力、運動能力の育成に関心を持っています。
- ・**スポーツクラブ**等の乳幼児向けの運動・スポーツ教室で、子どもたちの心と体がときめくために工夫できることを保育現場でのアイデアを提供しながら一緒に考えます（身近な自然、絵本、布など）。地域との関わりを築くために何ができるかを一緒に考えます。
- ・英国での留学（公衆衛生・小児肥満など非感染性疾患（Noncommunicable disease））、WHO Europeでのインターンの経験等があり、欧州を主にした諸外国の研究や保健・教育行政の動向に詳しく、必要に応じて、その長所や短所を見極め比較しながら検証を進めることが出来ます。



共通教育科

高柳 雅朗 准教授

【研究分野】 神経解剖学、解剖学教育
 【キーワード】 聴覚伝導路、解剖学、教材、ペーパークラフト
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=284taka>



人体の構造を立体的に学ぶ教材の研究

研究概要

人体の構造は小学校、中学校、高等学校の生物等の学習項目に含まれており、医療従事者を養成する教育機関や大学では解剖学として学びます。大切な基礎知識である人体の構造（解剖学）をわかりやすく立体的にセルフラーニングできる教材の研究を行っています。

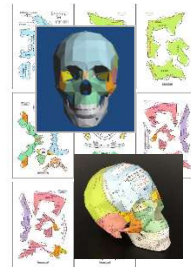
研究紹介

解剖学の学習教材ペーパークラフトの開発

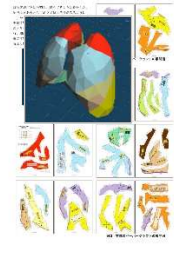
実物大の頭蓋骨、骨盤、脾臓、食道、胃、十二指腸、肺、腎臓、脳（脳）の学習教材ペーパークラフトを開発しています。

動物の内臓を教材とする解剖学実習の評価

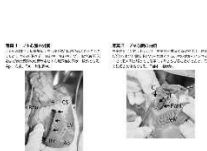
看護専門学校において未固定のブタの内臓（心臓、肺、腎臓、眼球、脳）を教材として解剖学実習を行っています。この教育効果を研究しています。なお、動物の殺生は行わず、屠場由来の組織を教材としています。



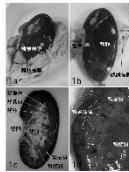
頭蓋骨の学習教材ペーパークラフト
高柳ら, 2022



肺の学習教材ペーパークラフト
高柳ら, 2021



ブタ心臓の解剖学実習
高柳ら, 2007



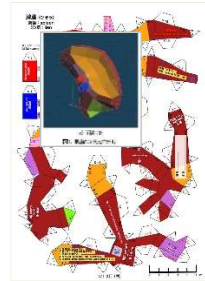
ブタ腎臓の解剖学実習
高柳ら, 2012



ブタ肺の解剖学実習
Takayanagi, et al, 2017



腎臓の学習教材ペーパークラフト
高柳, 2018



脾臓の学習教材ペーパークラフト
高柳, 2018

講座テーマ紹介

人体の構造（解剖学）の講座

アピールポイントなど

意匠登録第1735579号：上部消化管学習教材

意匠登録第1735588号：骨盤学習教材

意匠登録第1735589号：脳学習教材





看護学科

高橋 恵子 教授

【研究分野】
【キーワード】
【URL】

市民と保健医療者が共に考える「市民中心のケア 「People-Centered Care」の教材開発

People-Centered Care、市民中心のケア、ヘルスリテラシー
市民中心のケア、市民と専門職とのパートナーシップ、健康づくり
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=326taka>

研究概要

People-Centered Care (PCC) とは、個人や地域社会における健康課題の改善に向けて、**市民が主体となり**、保健医療専門職とパートナーを組み行われる取り組みのことをいいます。

超高齢社会に伴うさまざまな健康課題の改善に向けて「People-Centered Care（市民中心のケア）」における研究成果を集積し、さまざまな健康課題に、市民にできることは何か、保健医療者にできることは何かについて、市民と保健医療者が共に考える教材づくりに取り組んでいます。



People-Centered Care モデル
高橋恵子他（2018）.

研究紹介

1. 市民と保健医療者が共に考えるPCC教材の開発

自分の健康を自分で創り守るために、さまざまな健康課題に、**市民と保健医療者が共に考える機会**となるPCC（市民中心のケア）のeラーニング教材開発に取り組んでいます。PCCとは何か、PCCの実践例やPCCの活動事例を取り入れた教材を作成中です。

すべての人の健康的な生活を創り守る

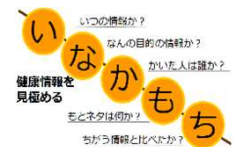
People-Centered Care
ピープル・センタード・ケア



PCC教材（作成中）

2. 市民のヘルスリテラシー向上をめざすプログラム開発に関する研究

自分の健康を自分で創り守るために、オンラインを用いた市民対象のヘルスリテラシープログラム（「健康情報へ適切にアクセスできる力」と「健康情報を正しく評価する力」に焦点を当てた市民講座）を提供し、その有用性を検討しています。



健康情報を見極める5つのポイント

講座テーマ紹介

1. ヘルスリテラシー講座（健康情報の探し方、選び方のコツ）：市民講座

自分の健康を自分で創り守るために、一般市民を対象に、オンラインを用いて健康情報を見極めるポイントをご紹介します。（本学オープンカレッジ講座）

2. 子どもへの「からだ」のおはなし会

5歳児前後の子どもたちを対象に、自分やお友達をもっと大切にするために、紙芝居を用いて、からだのしくみをお伝えしています。（本学オープンカレッジ講座）

アピールポイントなど

人々が自分の健康を創り守ることができるために、地域で取り組む健康支援活動に参加しています。NPO法人からだフシギ（メンバー）本学オープンカレッジ講座（市民のヘルスリテラシーの支援活動）、聖路加国際大学大学院看護学研究科（客員研究員、越谷しらこぼと基金委員会（委員）等

看護師の支援に関する研究・モノづくり・地域と繋がる

看護学科

田中 広美 准教授

【研究分野】 基礎看護学、看護教育、継続教育
 【キーワード】 看護教育、レジリエンス、看護実践
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=266tana>



研究概要

1. 病院（臨床）に勤務している看護師を対象とした研究
 - 臨床看護師の実践に関する研究
 - 職場環境に関する研究
 - 継続教育に関する研究
 - 1) 病院や施設、地域で活躍する看護師を支援する研究
 - 2) 職場環境に関すること
 - 3) 看護師の職務遂行上の困難に関すること
 - 4) 看護や介護で使用する用具の製作に関すること
 - 5) 看護師のレジリエンスに関すること
 （看護師の職務継続に関わるレジリエンス向上のための支援プログラムの構築：文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C））
2. 医療および介護に関するモノづくりに従事する企業との協同
 - 医療・福祉に関わるモノづくり（製品開発）

講座テーマ紹介

1. 看護師を対象としたレジリエンスに関する研修会
2. 医療・福祉器具に関わるモノづくりの座談会
 - ・自身が関わったモノづくりの概要紹介
 - ・医療・福祉器具モノづくりの展望について
3. 埼玉未来大学での講演（コミュニケーション、体力アップ）
4. 模擬患者養成講習会
5. 防災と自助・共助について考える

アピールポイントなど

- 病院における研修会開催の実績あり（レジリエンス、看護研究）
- 埼玉未来大学での講演実践あり（高齢者・コミュニケーション）
- モノづくりへの取り組み
 - 1) 注射針を廃棄する容器（針を取り除く装置）の開発に携わる（特許取得）
 - 2) ベッドから車いすへの移乗に使用するボードの開発に携わる（特許取得）



看護学科

森田 牧子 准教授

【研究分野】
【キーワード】
【URL】精神科訪問看護による家族支援、訪問看護師における虐待予防プログラムの開発
精神科訪問看護、家族支援、精神障がい者支援、虐待予防、産業保健
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=132mori>

精神科訪問看護による虐待予防 精神障害者と家族の生活を支援します

研究概要

地域で生活する精神障害者の8割は家族と同居しており、多くの家族が精神障害者の退院後の地域生活を支えています。在宅精神障害者の訪問看護利用は、介護負担や家族の高齢化に伴い、増加傾向にあります。看護内容は疾患の状態観察から日常生活支援、家族支援と多岐にわたります。そのため看護師は、家庭内で生じる虐待やリスク状態にある場面に遭遇することがあります。そのようなハイリスクな家族に訪問看護師はどのような観察や看護を提供することで虐待予防に繋がるのか、調査研究を実施しています。

受託研究では埼玉県内の地域と自殺予防対策の調査や対策を共同で行っています。地域社会が活性化するお手伝いをいたします。

研究紹介

- 精神障害者虐待予防に向けた看護ケアプログラムの構築
 - 1.訪問看護師が虐待リスクを測定できる指標「在宅精神障害者の支援状態評価尺度」の開発
 - 2.訪問看護師の虐待リスク家庭への介入ケア内容の分析
 - 3.訪問看護師の観察内容と「在宅精神障害者の支援状態評価尺度」のリスク度測定調査（実態調査）
 など、精神科訪問看護師の実践での困難、家族や当事者の困難を共有し、支援方法を検討しています。
- 訪問看護師による精神障がい者の注意サインの研究
精神科訪問看護師が精神障がい者の症状悪化をどのように捉え、どのようなサインが悪化に繋がるかについてミックスメソッドを用いて研究しています。
- 自殺予防に関する調査と対策
地域住民にK6等を用いてメンタルヘルスに関する調査を行い、住民の現状を把握し行政の方々と求められる対策を検討しています。

講座テーマ紹介

- 精神障がい者虐待予防、訪問看護における虐待予防などに関連した一般向けおよび専門職向けの講座
- 虐待予防における多職種連携に関連した講座など
- 産業保健におけるメンタルヘルスなど
- ゲートキーパー研修
- 自殺予防、メンタルヘルスに関すること

アピールポイントなど

精神科訪問看護師の経験から、精神障がい者が安心して地域生活を送るための支援や調査を行っています。自殺予防に関連する調査やメンタルヘルスに関する講演を行います。



看護学科

千葉 真希子 助教

【研究分野】 母性看護学、助産学、国際協力
 【キーワード】 在留外国人支援、多職種連携、学内代替実習
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=275chi>



外国人住民支援・シミュレーション教育

研究概要

- 妊娠・出産・育児はどんな方にとっても重要なライフイベントとなります。外国人住民や外国に由来する方々が日本で妊娠・出産・育児をする中で、言葉や文化の相違等により妊娠や育児に影響を及ぼすリスクが指摘されています。誰もが安心して妊娠・出産・育児するために必要な母子保健サービスについて、自治体や外国人支援団体、専門機関等の多職種連携や支援体制の整備について研究を行っています。
- 臨地実習が困難となる状況の元で、臨地での母性看護学実習に近づけた学内代替実習を行うことで臨地実習経験の少ない学生に実習教育の質が担保できるよう、工夫と実践を行っています。

研究紹介

- 外国人妊産婦の医療や支援団体へのアクセス等に関する研究
- 母性看護学・助産学領域における学内代替実習の工夫・実践に関する研究

講座テーマ紹介

- **母子保健サービス提供にむけた簡便なコミュニケーション、更なる情報提供**
 - ・多くの母子保健サービス提供者が外国人住民への適切な情報提供に課題や葛藤を抱えながらサービス提供をされている中で、やさしい日本語などをはじめとする簡便なコミュニケーション（やさしい日本語等）や情報提供の更なる可能性についての検討等。
- **国際協力についての出前講座等（国際協力出前講座/遠隔での講座も対応）**
 - ・国内外において、なぜ国際協力が必要なのか、身近な国際協力とはどんなことから始められるのか、等についての情報や体験学習などに関するご提案等。
- **代替学内実習臨地実習（シミュレーション教育）**
 - ・代替学内実習を余儀なくされる中で、臨地実習経験が少ない学生にとって学習段階として臨地実習が代替実習となるための工夫や実践の検討。



タイ Chiang Mai Rajabhat University 出張講座



代替学内実習の1シーン

アピールポイントなど

- 自治体や外国人支援団体の皆様に研究のご協力をいただいております。
- 日本・タイの小学校～専門学校、大学等への出前講座をさせていただいた経験があります。
- 国内外問わず、妊娠・出産・育児のライフサイクルをその人らしく過ごすための支援についてご相談させていただきましたら幸いです。

呼吸・循環・代謝系障害への介入効果に関連する研究開発



理学療法学科

今北 英高 教授

【研究分野】 基礎理学療法学分野

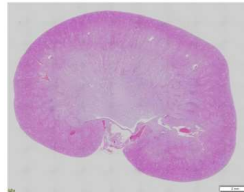
【キーワード】 COPDモデル、心不全モデル、糖尿病モデル、腎障害モデル、肝障害モデル

【URL】

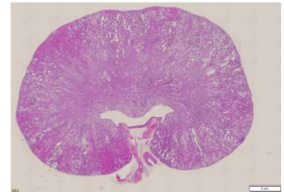
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=3271ma>

研究概要

呼吸・循環・代謝は、生きていく上で欠くことのできない組織・機能であります。私は主に、呼吸器疾患モデル、心不全モデル、腎障害モデル、肝障害モデル、血管閉塞モデル、横隔神経切除モデルなどから、その後を生じる生体反応や病態生理を分析したり、運動療法や物理療法、栄養療法、薬物療法などの介入における効果を検証したりしております。2023年に加圧酸素ルームも本学に導入したので、酸素療法の効果なども分析していければと思っております。



正常な腎組織

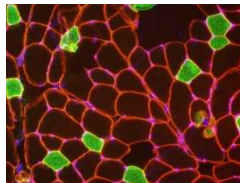


腎不全モデルの腎組織

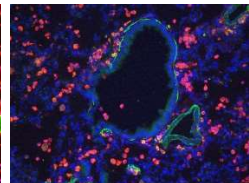
講座テーマ紹介

2020年から2022年に実施した実験課題のタイトルです。

- ・慢性腎不全モデルに対する軽度高圧酸素療法の検証
- ・心不全モデルラットに対する糖質摂取が心機能に与える影響
- ・糖尿病性心筋障害モデルラットを用いた高強度インターバルトレーニングが及ぼす効果
- ・肺気腫モデルラットに対するMild Hyperbaric Oxygen Therapyが骨格筋に及ぼす影響
- ・呼吸器疾患モデルに対する運動療法および加圧酸素療法の併用が筋機能へ及ぼす影響
- ・薬理的筋損傷モデルラットにおける筋再生への週齢別検討
- ・関節固定後の筋萎縮における分岐鎖アミノ酸摂取によるAkt/mTOR系の反応など、多角的に実験してきました。



骨格筋の免疫染色



肺組織の免疫染色

アピールポイントなど

呼吸・循環・代謝系障害モデルを用いた研究は20年以上続けております。その間に大学院にて多くの修士修了生、博士修了生を輩出し、今でも共同で実験を継続しております。さらには、留学経験からアメリカや台湾の研究者とも交流を続けております。様々なモデルについての介入効果についての共同研究をお待ちしております。



理学療法学科

今北 英高 教授

【研究分野】 運動器分野 ファシアに関する治療開発やハイドロリリースの研究
 【キーワード】 Fascia、ファシアハイドロリリース、ファシアモデル開発
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=327ima>



Fascia（ファシア）に関連する研究開発

研究概要

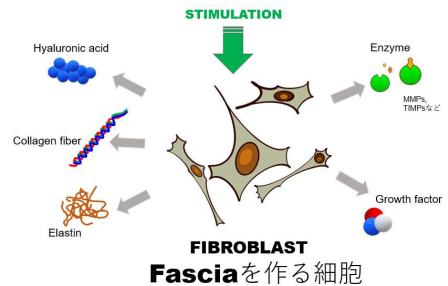
ようやく日本でも、fasciaという言葉がメディアでも取り上げられ、浸透してきました。世界的にはfasciaに関する研究が盛んに行われてきており、その構造や機能が運動器、特に“動き”と“痛み”、そして“美容”に大きく関わることが明らかになってきています。身近でいえば、肩こりや腰痛症などの1つの原因とも言われています。また、動きと痛みといった医療関連だけでなく、小じわやたるみといった美容業界でも大変注目を浴びてきており、その研究開発は国内外問わず盛んに行われつつあります。

研究紹介

現在、臨床現場で活躍している医師、理学療法士、鍼灸師、柔道整復師の方々と症例を共有し、治療効果について日々研鑽しています。特に、医師が実施するファシアハイドロリリースに関しては治療効果が高く、学術論文にも掲載されているほか、海外の専門家からも注目されています。理学療法分野においても臨床の理学療法士と一緒に治療手技に関して、共同開発しています。

講座テーマ紹介

- ・ Fasciaの解剖生理学的意義
 - ・ Fascial pain syndrome
 - ・ ファシアハイドロリリース
- など、ファシアに関する初歩的な理解から、それに対する介入効果について講演可能です。



アピールポイントなど

2018年11月に、ドイツベルリンにて開催されましたファシアに関する国際会議『5th International Fascia Research Congress』にて、『Best Basic Science Abstract Award』を受賞しました。

2022年2月に、Fasciaに関する秀作ともいわれる洋書『Fascia: The Tensional Network of the Human Body』の第2改訂版にて、Chaptar 7.23 『Hydrorelease of Fascia』を共同執筆しました。



社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

富田 文子 助教

【研究分野】 障害者福祉、就労支援、職業リハビリテーション、福祉行政サービス
 【キーワード】 障害者、雇用・就労支援、企業、支援機関、教育、合理的配慮
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pid=294fomi>



障害者の就労支援・雇用支援

研究概要

近年は労働力不足が課題ですが、障害者がその能力を活用し就労することは、それらを解決する一助になると考えられます。また、障害者を企業等で雇用する割合（障害者雇用率）が上昇していることから、一層、障害者雇用が促進されていると言えます。

ただ、雇用の実現には、①企業での人材育成や合理的配慮等といった努力と、②就労支援機関における支援、そして、③自治体による支援機関へのサポート・連携という重層的支援の展開が非常に大きな役割であると考えます。

障害者雇用の支援対象は、障害者と企業です。障害者が就労でき、雇用が維持でき、収入を得て希望する地域での生活が維持できるような方策を考えていきたいです。

研究紹介

障害者の雇用形態や賃金体系を研究しています。また、公務員の経験を活かし、地方自治体との共同研究契約を結び、以下も実践しています。

- ・ 障害福祉サービス事業所を自治体が支援するなどの地域の重層的な就労支援の検討
- ・ 相談支援事業所や福祉事務所・保健所等の支援者に向けた障害者就労支援事業所の選択をサポートするツールの開発
- ・ 就労する知的障害者との余暇支援事業を通じた交流が大学生に与える意識の変容の分析

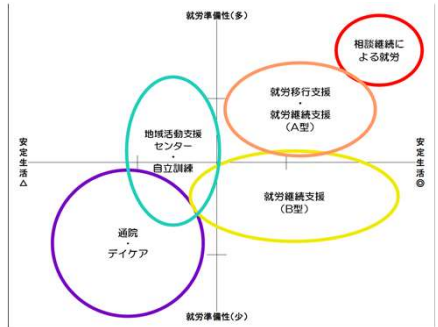


図1 就労支援機関の事業種別による利用時期に関するイメージ（富田2018）

講座テーマ紹介

- ・ 障害者の就労支援を支える地域づくり考える講座
- ・ 何が合理的配慮なのか／どう合理的配慮を提供するかのかの考え方・実践のためのワークショップやツールの開発
- ・ 企業の雇用形態や賃金体系の向上に向けた検討

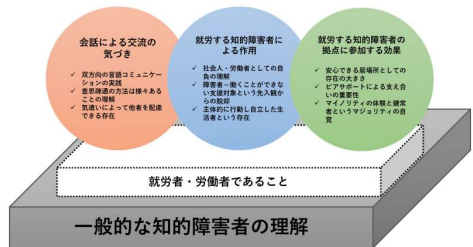


図2 余暇支援事業への参加を通して就労する知的障害者との交流会による交流が社会福祉学系大学生に与える意識の変容の全体像（富田2021）

アピールポイントなど

自立支援協議会専門部会委員や、普通高校における配慮の必要な生徒さんへのサポートに参加させていただき、合理的配慮の提供等の実践を踏まえながら研究を進めています。

合理的配慮の考え方や事例を用いた検討会、企業等の支援者向けのスキルアップ研修などをご依頼いただけてきました。

障害者の希望する生活を支えつつ、支援者へのサポートも考えた活動をともに考えながら、柔軟な発想で実践していきたいと考えています。



睡眠を改善する介入プログラムの開発と効果の検証

健康開発学科 検査技術科学専攻

有竹 清夏 教授

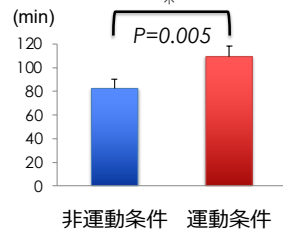
【研究分野】 睡眠生理学、睡眠医学、時間生物学
 【キーワード】 睡眠、不眠、脳波、脳機能、温熱生理(体温)、認知科学、女性、運動、睡眠衛生、超音波
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=225ari>



研究概要

一部の不眠症やうつ病では、自身の睡眠時間を著しく少ないと評価する**睡眠時の時間感覚の異常**が認められ、その背景には**深い睡眠の減少**が関連している可能性が考えられています。そこで**不眠症の生理学的メカニズム**を探るとともに、**深い睡眠を増やす身体運動や温熱刺激を用いた有効な介入プログラムや新たな評価法**を確立し、現代社会で誰もが抱え得る**不眠の改善に貢献**したいと考えています。健常者や不眠症者、精神的・身体的不調を抱えやすい女性を対象に基盤研究・臨床研究に取り組んでいます。

運動の有無と深層眠量



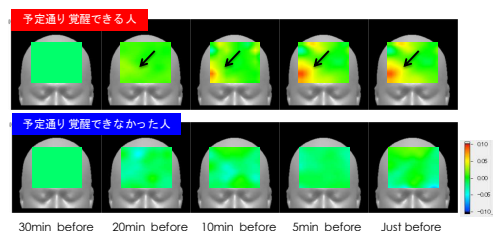
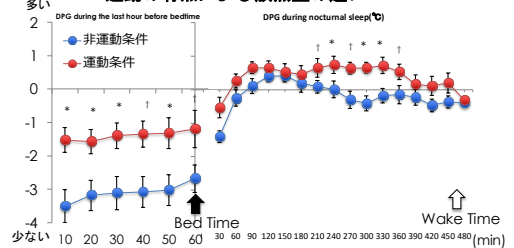
研究紹介

- 睡眠中の時間感覚と生理学的メカニズムの研究
- 女性(成熟期・更年期)の睡眠と体温リズムに関する研究
- 身体運動が睡眠中の生理機能と認知機能に与える効果に関する研究
- 睡眠呼吸障害時の脚運動と心血管疾患リスクに関する研究(共同研究)
- 地域包括に向けた高齢者の睡眠マネジメントに関する研究(共同研究)
- 乳幼児の睡眠と運動発達に関する研究(共同研究)
- 新たな睡眠指針のための環境整備に関する研究(共同研究)
- 睡眠衛生、QOL、疲労に関する疫学研究 など

講座テーマ紹介

1. 高齢者への睡眠衛生に関する講座
2. 小、中、高、大学生を対象とした睡眠衛生教育講座
3. 睡眠の基礎、睡眠障害に関する一般、専門職者向け講座
4. 睡眠計測・睡眠判定基準に関する専門職者向けの講座
5. 睡眠の臨床研究(治験)における医療技術講座・支援

運動の有無による放熱量の違い



アピールポイントなど

1. Increased cerebral blood flow in the right frontal lobe area during sleep precedes self-awakening in humans. BMC Neuroscience, 2012
2. Prevalence and associations of respiratory-related leg movements: The MROS Sleep Study. Sleep Medicine, 2015
3. Diurnal repeated exercise promotes slow-wave activity and fast-sigma power during sleep with increase in body temperature: a human crossover trial. Journal of Applied Physiology, 2019
4. Periocular skin warming elevates the distal skin temperature without affecting the proximal or core body temperature. Scientific Report, 2019
5. Periocular skin warming promotes body heat loss and sleep onset latency: a randomized placebo-controlled study. Scientific Report, 2020



SAITAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

編集・発行・問合せ

埼玉県立大学
地域産学連携センター
<https://www.spu.ac.jp/>

〒343-8540
埼玉県越谷市三野宮820
Email edec@spu.ac.jp
TEL 048-973-4114
FAX 048-973-4807



東武スカイツリーライン「せんげん台駅」下車
西口よりバス約5分または徒歩約20分